

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500194		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム押水(さくらユニット)		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜えびすが丘59		
自己評価作成日	令和2年12月29日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市成町712番地3		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送っていただきます ・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します ・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します という理念を活かして、ご縁のあった利用者さんに幸せな時間を提供するため日々努力しています。また、誕生会や季節の行事(花見・夏祭り・クリスマス・運動会等)を行い、楽しい時間を過ごしていただいています。
<ul style="list-style-type: none"> ・中庭でバーベQやティタイムで少しでも外の空気に触れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指す目標を示し、利用者個々の事情を汲み、症状や能力に沿いながら生きる意欲を引き出せるよう取り組んでいる。 ・介護計画は、ぬり絵を描く、歩く練習をする、新聞を読むなど、本人がしたい事を少しでも長く続けられるようその生活習慣を目標にするなど、本人・家族が何を求め、どんな暮らしぶりなのかが見える内容となっている。 ・昼食と週2日の夕食に食事作り専門職員がおり、土間打ちの中庭を屋外レストランにしたり、便秘対策に牛乳寒天を作ったり、今は自粛しているが人気飲食店にも出向くなど、利用者の暮らしに楽しく美味しくをに取り組んでいる。 ・コロナ禍のため、皆で繰り出す花見や紅葉狩り行事は断念しているが、県下・地元の感染状況を見計らいながら予防対策を講じての家族面会や、職員と個別に砂浜や銀杏並木、コスモス畑、自宅周辺等に出かけたり、誕生日にも食べたいものや行きたい所へ出向く支援を継続しているなど、利用者の望む暮らしに向け取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を踏まえ、ビデオを利用しいつでもテレビを観れる環境にしたり、寝る前に「お腹すいた何も食べていない」と言う利用者には寝る前に「おやつタイム」を儲けたりしている。また認知が進んだ人には字を書く時間をもうけたりして理念の実践につなげている。	「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」を理念とし、本人が望めば主治医と相談し、自宅にいたように就寝前に少しでもおやつを摘めるようにするなど、その人らしい暮らしぶりの具現化に向け、会議での唱和や日々の関わりの中で、理念に立ち返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園と災害時の協力を約束したり、小川すこやかクラブの人が利用者に額入りハガキのプレゼントをしてくれたりしている。また宝グループの人が毎年花のプレゼントをしてくれる。	通年、敬老会の参加や文化祭に作品出展、地元スーパーや図書館の利用、近隣保育園からも運動会やクリスマス会に招待されるなど、利用者と地域との交流が今年度はコロナ禍のため中止や自粛を余儀なくされている中、町の福祉活動団体から贈答品を頂く交流があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は外部の方と交流する機会を持つことができず残念に思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により面会禁止にしているため書面での事業報告を運営推進会議としている。	会議は隔月開催で、家族代表、市社協の会長でもある区長、行政・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催しているが、今年は感染予防のため入居状況やホーム活動内容、感染対策等の報告書を送付する書面開催にかえて、ホームの実情をお伝えしている。	会議議事録(あるいは書面報告書)を、参加者や家族に配布されるとともに玄関にも常置され、ホーム運営の理解や家族・地域関係者の参加増員につなげられる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や感染症対策の助成等、いろいろ相談にのってもらっている。	行政担当課には運営推進会議にてホームの実情を伝え、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等、今年はコロナ対策の情報等も頂き、ホーム適正運営につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議時に2人の利用者のトラブルについて話し合う。2人の間に入ってトラブルを止める時、どのような声かけをしますか？を1人ずつ聞く。声かけの仕方でも逆上する時もあることを話し、2人の距離を離し落ち着いたときに声かけする。	日中の玄関施錠はしてなく、業務を優先してつい口に出る利用者を抑制するような声かけは抑止し、外に出たい様子を見れば車椅子を引いて散歩に出かけ、落ち着いたら戻るなど、日常で起こった問題や課題は職員会議や場合によってはその場で、利用者の思いを優先に身体拘束をしないケアに向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で話し合う。「スタッフの何気ない言葉にも利用者さんが傷ついている事もある。」など、その都度認知してもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解出来ている職員もいるが、全ての職員の理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	退所される家族さんの要望でSDカードに本人の写真をいれてお渡しした。また「家族にどのように過ごして欲しい」か聞きプランを作成する。家族の希望で「字の練習をしてほしい」とのことで毎日、字の練習をしている。	家族の訪問や電話連絡時に金銭管理報告や衣替えの依頼、体調の加減や近況を伝え、毎月の請求書には法人代表と担当職員からのスナップ写真と近況コメント便りを同封。退所時に写真をまとめたSDカードやパネルを作りお渡ししたこともある。頻繁に来て頂ける地元家族が多く、面会にはマスク着用・検温・手指消毒のもと、玄関で2mの間隔を空けて頂いたり、応接室でアクリル板越しでお話し頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議で随時意見を聞き運営に生かすようにしている。	毎月のユニット会議には法人代表者、近隣法人事業所の管理者兼務のケアマネ、元行政職員の非常勤職員が参加しており、代表者がいることで即決性もあり、職員からの設備充足や処遇改善、サービス向上提案等が反映される仕組みとなっている。コロナ禍の今年度は、利用者の気分転換やストレス解消のため、1人ずつ個別にドライブをしたい要望を受け、感染対策を講じたうえで実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に新しい情報を取り入れられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談することでご本人のご要望を聞きだし不安を取り除くよう努めている。スタッフに、本人さんが少しでも馴染めるように会話しながら、回想法をもとに、なにが好きなのか探		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时よりご家族のご要望を把握し不安を取り除くよう努めている。家族さんにヒヤリングシートを渡し、どの様に過ごしてもらいたいのか聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の能力に応じて役割を持っていただいている。一緒にかぎ針する。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者から状態を記載したお便りを送付している。受診介助もご家族にお願いしている。入所間もない家族だがコロナで面会出来ず、誕生日の日にプレゼントと手紙を渡して欲しいと持参する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医を継続し、行きつけの美容院にもいけるようにしている。家へ行きたいと言われ家の周りや、本人の田んぼを見てくる。「ここは●●や。ここは▽×や」などイキイキと話してくれる。	家族以外にも自宅近所から面会に来てもらえる方、敬老会に行くと顔馴染みの方がいる方、家族と美容院や墓参りに行く方、傾聴ボランティアの方とは皆が馴染みになっている。千里浜なぎさドライブウェイや自分の田んぼを見に行けば、思い出話をたくさん聞かせてくれるなど、それぞれ感染防止対策を講じながら馴染みの関係の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には職員が間に入り橋渡しをしている。関係性が悪くなった利用者が出てきた場合はさりげなく食事の席替え等して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、亡くなられた時には葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	左手が不自由な利用者さんが手芸を好きなので簡単な編み物出来ないか何度も試す。かぎ針で本人と一緒に編み物すれば、少しだけ出来ることが分かった。毎日新聞を、読み書きしてもらい、少しでも何かしていると実感してもらおう。毎日日記を書いている利用者さんがいるが、今日は何月何日とわかり、毎日の日課を書き、分かるようにしている。	利用者個々の思いや意向は、日々の生活記録やユニット会議で、把握と情報共有に努めており、今年度はA4用紙に本人の顔写真を貼り、その回りに担当職員が聴いた経歴や思い出、好きな事、やりたい事を書き込む「独り言」シート作成に取り組んでいる。把握困難な方には日頃の関わりの中で都度気持ちを察して、本人本位のケアとなるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、また居宅のケアマネジャー、サービス事業所等から情報収集し、出来る限り経過の把握に努めている。「独り言」シート作成時回想法を取り入れ、利用者さんに聞き作成し		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを知り、ご本人のしたい事やできる事を本人のペースで行ってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを基に毎月会議で話す。その人の「独り言」を、写真と吹き込みにし、皆で話し合っ、本人の過去を探し出したりし、何が好きなのか分かった。	毎月のユニット会議にて全利用者の状況をモニタリングし、その結果を踏まえ、計画作成担当者またはケアマネが、基本1年毎に本人・家族の意向を反映させて更新作成し、面会訪問時や郵送等にて承諾を頂き、体調・症状の変化や入院等があれば随時更新している。その方にはずっと新聞を読み字も書いて頂こうと、家族から眼鏡を頂いたり、虫眼鏡も使用して頂くなどを計画化して実行した事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの活用や町の図書館に定期的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人希望のかかりつけ医を継続できるよう支援している。何かあったらすぐDrやNSに相談し、受診の指示があれば、その都度受診している。	受診は、毎月訪問診療のホーム提携医のほか、入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療もある。通院や外来受診については基本家族付き添いだが、事情によっては職員が連れ添ったり、精神科には職員も同行して本人の日常を伝える場合もある。看護師職員もあり、全利用者の健康管理を含め、施設内感染症対策も図っているなど、適切な安全環境や医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応及び看取りの指針に基づき事業所の対応方針を家族に説明している。	毎月のモニタリングや食事が取りづらくなるなどの日常の関わりの中で重度化傾向が見られれば、早い段階で家族に診察をお願いし、診断結果に応じてホームでできる支援や提携医療機関、特養施設を紹介し、悪化しても本人・家族が不安なく進めるよう図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催している。NSIによる勉強会を実施。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	NSIによる勉強会を実施。119番の仕方の勉強会を行う。全スタッフに119番の連絡の仕方を訓練しいざとなったときに、慌てないようにする。	行方不明も含む症例別の対応マニュアルを配備し、ヒヤリ・ハット報告書が出ればユニット会議で検討を図り、事故予防や再発防止につなげている。今年度は消防署員による救急救命講習は中止となったが、近隣同法人事業所と合同で看護師職員を講師に正しい脈の取り方や体温測定研修をするなど、より実践に即した緊急時対応が身につくよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている他に気になることがあれば些細な事でも相談し対応している	提携医療機関のほか、利用者個別の複数のかかりつけ医療機関にも訪問診療に来て頂いており、特養施設についても今年度はコロナ禍で中止だったが行政主催の研修・勉強会にて交流している。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時ホーム長に連絡する。ホーム長がホームに着き指示する。3度夜間緊急時あり、ホーム長が対応した。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で夜勤専任職員もいる。日中状況の申し送りに万全を期し、緊急時は24時間対応の提携医療機関に連絡や救急通報をするが、容体等を説明する電話の仕方や管理者・代表者・家族への連絡手順をフローチャート化しており、また落ち着いて対処できるよう研修も実施している。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	保育所に災害時対応訓練時の協力体制をお願いしている。	行政広報のハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で、日中・夜間・火元を毎回変え、また天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施しているが、今年は感染防止対策のため中止を余儀なくされている。	コロナ禍であっても感染防止を図りつつ、できる範囲で災害時における利用者、職員の安全確保に向けての検討や研修・訓練を実施されることが望まれる。また年2回いずれかの避難訓練に、消防署立ち会い訓練も加えられる事も期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事務所にハザードマップを用意している。	ライフラインや関係機関等の連絡先リストとともに、パン等の非常食や保存水の備蓄品を職員分も含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品も整備している。また近隣保育園とも相互で避難先となる提携も交わしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	保母さんをしていただいていた利用者さんが、一昨年文化祭参加した時「○○先生」と言われ感謝された。不穏時その時のことを話すと「恥ずかしいわぁ」いいながらもニコニコし落ち着く。洗濯物を一度に沢山渡すとどうすれば良いか分からず、オロオロするが、一枚ずつ渡し一緒にたたむと嬉しそうにたたんでくれる。	家族からの差し入れがあると、ある時は喜ばれたり、もったいないと悲観されたり、ある時は自分と会わなかったと憤慨されるなど、良いと思った事が余計に感わず場合もある。症状に起伏がある方には、その日その時の健康状態や表情を見て声かけするなど、日頃のコミュニケーションで信頼関係を積むとともに、症状の理解と個性を尊重したケアに取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はできる限り本人の希望に沿って働きかけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿ったケアができるようにケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きをしてくれる。おはぎを食べたいといつも言っているので、お彼岸に皆でおはぎ作りし食べる。食の細くなった利用者さんが、サンドイッチをパクパク食べる。時々パン食の日を設ける。外食が出来なくなったので、2～3ヶ月に1回お弁当を食し、ホームにいながらも楽しいひと時を過ごしてもらう。中庭でバーベキューしたり、おやつを食べたり気分転換する。	献立・調理は専門職員が美味しさファーストで担い、利用者も下拵えや後片付けに加わり、ずいきの皮むきなどは職員より上手くして頂ける。食材は地元スーパーの購入だが、旬野菜は近所や家族のお裾分けもたくさんあり、時々パン食にしたり、外食ができないため旬弁当を買ったり、中庭で感染防止を講じながらバーベキューをしたり、お好み焼きはリクエストされた本人に上手にひっくり返して頂いている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録したり栄養バランスを配慮しながら献立を立てている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知が進んだ利用者さんが失禁が多くなる。時間の間隔が長いと失禁するので、会議で話し合い、2時間に1回トイレ誘導するように心掛ける。失禁はほぼなくなった。	排泄は、ほぼ自立している方が多いが、全員を対象に排泄管理をし、モニタリングやユニット会議等で適切なパットや紙パンツ、防水シート等の介護用品や介助の仕方、誘導時間等を検討して臨んでいる。野菜、乳酸菌、牛乳寒天の摂取、日中歩行や体操など、本来の能力を引き出すとともに、薬局薬剤師に成分や処方を確認するなど、便秘・頻尿や失禁等を軽減させ、正常な習慣に近づけるよう取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。牛乳寒天OS1飲んでもらう。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴だが希望があれば対応する。1人で入浴したい利用者さんがいて、職員も脱衣場に入られたら嫌がり入らないようにしているが、忘れて入ってしまい、のんびり入浴出来ない。そこで脱衣場前に「入浴中」の段ボールの置物を作り立てかけたら本人さんも満足し、ゆっくり入浴できる。	入浴は、日曜を除く午前中に、週2回以上を目安にご利用頂いており、入浴を嫌がる方には勧める職員や日を変えて入って頂いている。入浴剤は数種あり、湯加減や一番風呂等のご要望にお応えし、自分専用の洗髪剤を持つ方もいる。衣服着脱も含め簡易な見守りのもと単独で入浴される方には、脱衣室前に「入浴中」の紙看板を置いて、ゆっくり寛いで頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンをつかみ日常生活に支障が出ないようゆっくり休んでいただいている。身体が傾く利用者さんや足の浮腫が酷い利用者さんはその都度休んでもらう。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年より薬局と協力して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や貼り絵などいろいろ楽しい時間が持てるよう援助している。認知が進んで言葉がなかなか出なくなった利用者さんが歌が好きなのでトイレ介助時に歌を唄いながら歩くと一緒に歌を唄い言葉が少し出るようになる。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	紅葉狩りに近くの銀杏の木やコスモスをみて楽しい一時に喜ぶ。千里浜なぎさドライブウェイなど行き、昔をなつかしむ。	感染防止で、毎年実施していた福祉ワゴン車をチャーターして皆で外食を兼ねた花見や紅葉狩り等に繰り出す企画や、利用者に行く食料・日用品の買い出しは断念しているが、それでも人と会わない時間帯を見計らいマスクを着けて散歩をしたり、砂浜や銀杏並木、コスモス畑などへ職員と2人だけで出かけている。また、誕生月に食べたいものや行きたい所へ個別に出向く支援も継続している。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレに入っても分からず戸を開けトラブルになっていた。トイレのドアに「トイレに入る時は、そっとノックしてください」と張り紙をする。居室に家族との写真を貼ったりしている。家庭的な雰囲気につとめている。	リビングから宝達山が一望でき、採光良く、除湿・加湿・温度管理に、提携医指導のもと看護師職員が主となり窓開け換気や消毒清掃、今年度はスリッパ消毒棚や応接室にアクリル板を設けるなど、感染対策の徹底を図っている。玄関広間やユニット出入口の飾り付けでも四季が楽しめ、中庭の土間打ちコンクリートはしだれ桜を一層映えさせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にソファ席を準備してあり思い思いに過ごされている。和室でごろ寝。テーブル同士の仲良し4人組で今年の正月どうする？話し合いをし、楽しそうに相談している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を貼ったり、犬が好きな人には、犬のぬいぐるみを居室において寂しい時は、抱いたまま寝ていたりしている。	居室は全室洋室でベッドが備え付け。危険物以外、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされている。ラジオ好きでこもりがちの方やホームの夏祭りイベントで贈呈した犬のぬいぐるみがお気に入りの方もいる。また運動機能に応じて、家族と相談しながら適宜に配置換えをして、安心安全環境を図っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		

